

【資料3】第3回伊予市都市再生推進調査会

○第1回伊予市都市計画審議会 主な意見と回答

種別	項目	質問内容	会議中の回答
方針（財政との関係）	A	伊予市駅と郡中港駅付近を実際、開発するにあたって予算が本当につくのか。例えば、選果場の辺りであれば複合施設が立地する場合に利便性もよいと考えられるが、そのあたりについて本市の方向性は。	選果場の辺りは大きな土地であり、民間の資本も活用しないと実現は難しい。もし時機が来れば、民間資本等の活用も検討しながら、市としてお手伝いするという方向になると思う。 現在、都市再生整備計画事業で、図書館・文化ホールの整備を行っている。それとあわせて郡中のまちに面的な整備をするということで、少しずつまちなかに勢いを入れるようにしたい。
方針（財政との関係）	B	都市づくりの方向性を議論する上で、国から補助金をもらえるからやるのか、市としてももう集約をしなければいけないという中で考えるのか、本当に本市をどういうふうにしたいのか。	事業施行にあたって、市の単独ではなかなか難しいので、国等の支援があれば活用したい。今回の都市再生整備計画事業は28年度からの5カ年でやるということで実施しているが、この事業にまた引き続き何らかのメニューを積んでやっていきたい。
方針（施設）	C	本市は、大きくは松山圏域の周縁に位置している都市計画区域。その中で、例えば、大規模複合商業施設を誘致しようとしているのか、あるいは既存のスーパー等を維持するというぐらいの考えなのか。 ほかにも、医療であれば、例えば愛媛県立中央病院レベルの高次の医療行為ができる病院を例えば市立病院で建てようとしているのか、個人病院的なものがここへ集中できるような形で考えているのか。	商業施設については、今立地しているスーパーを維持する方向で、それより大きい施設は考えていない。 医療についても、病床20床以上の「病院」は、現在伊予病院だけであり、中心市街地は各診療科が多数立地していて、それら全体で地域の医療を守っているような現状である。 本市としては、それら個々の医療機関が今後も引き続き地域の医療を補っていくということであり、大きな病院を誘導したいというところまで考えていない。
方針（将来の都市像）	D	今、本市における都市計画の柱、都市整備として進む方向、目的は。	当初の都市マスは、平成16年に策定し、合併以降、平成22年ごろに改定の作業をしていたが、公表には至っていない。 それではいけないということで、今回この計画とあわせて都市マス改定も進めている。 計画は、主に市街化区域内に着眼するので、都市マスと計画の2本立てで進めているのだけれども、都市マスについては、この後、居住誘導区域を設定とタイミングを合わせて策定を進めていきたい。
	E	都市マスはあるものとして、本来の本市の方向性について、柱をつくるには、例えば、松山の梅津寺と同様に、JR高架化と港の開発と港の前に道の駅を開設するような開発をして、瀬戸内海の魅力を活かす考えは無いのか。今まで意見として出なかったか。	今回の立地適正化計画については、あくまで現在運行している公共交通を軸にして考えていくということに重きを置いており、港湾を中心にした開発のイメージでなく、鉄道駅やバス停等を含む交通結節点を軸にまちを再構築していくという整理をしている。そのため、今までも意見が出てこなかったと考えている。
	F	今まで出てきてないのなら、今回、瀬戸内海も含めてもっと大きな範囲で本市の発展になるような方向性を考えたほうが、施策をまとめる方針になるのではないのか。	
区域（全般）	G	新たに施設誘導の用地、企業地を構えるという観点では都市機能誘導区域を見る必要はないのか。都市機能の維持を位置づけるような既存の施設を取り囲む区域にしてあるのか。	お見込みのとおり。今ある機能を維持することを主とした区域設定である。
区域（防災）	H	立地適正化計画を普通に読むと、防災対策推進区域には都市誘導施設を持ってこないと読めるのだが、そうではないのか。	本市では、都市機能誘導区域に重ねて防災対策推進区域を設定している。 他市では、避難警戒態勢の推進等の施策を行うことで居住誘導区域に含めていくという計画が多いのだが、本市はもう少し踏み込んで区域設定を行い推進する姿勢を見せるべくこのような区域を設定しようとしている。
施設（全般）	I	都市機能に産業分野は入らないのか。医療・福祉・商業施設のみになるのか。	計画において、産業は都市機能に含まない。
施策（防災）	J	防災について、全然先が見えない計画なのでは。広域防災拠点であるウェルピアまでの避難ルートも全然分からない。これを見ても全く防災について適当に書いているだけにしか見えない。都市の集約は大事だが、もう少し防災について具体的に考えないといけないのではないのか。	南海トラフ巨大震災などの大規模災害の防災関係については、危機管理課のほうで防災計画を立てている。それらと計画の整合性を図りながら防災対策を行っていきたい。
施策（防災）	K	仮設住宅をどこに建てる計画があるのか。 小学校のグラウンドに仮設住宅建てたら5年ぐらいいは置いとかなければならず、学校が使えない、そういうことは無いのか。	仮設住宅に関しては、危機管理課のほうで担当である。一度参照した資料では、郡中小学校、港南中学校が候補地に挙げられていたと思う。 (水田委員) 以前市議会で、学校の敷地を仮設住宅の建設地から避けるべきじゃないかという質問をした際、市長が次のように答えている。市内全部24カ所で15万何千平米を用意している。そのうちの約半分、50.9%、14カ所、7万数千平米が学校敷地にある。学校施設を利用しない場合の対策としては、公営住宅や民間賃貸住宅の空き家への一時的入居のほか、農地等の私有地への活用を検討したい。
施策（防災）	L	具体的な施策や、強制力を持った施策でこの対策を強力に推進していくというふうな地域を防災対策推進の区域というふうにしたほうが良いと思う。前向きな姿勢をもう少し具体的に表してほしい。	居住誘導区域の設定までにはまだ少し時間があるので、その時間の中で検討していきたい。
施策（防災）	M	防災・減災に配慮したまちづくりについて、湊町は道路が狭いということに対して対策を講じるようにしているのだが、維持していただくように是非ともお願いしたい。	

【資料3】第3回伊予市都市再生推進調査会

種別	項目	質問内容	会議中の回答
施策（防災）	N	ウエルピア伊予は耐震化されておらず、大規模災害が起きればウエルピアも壊れる。その場合、建て替えるお金は本市にはない。将来的に、ウエルピアに仮設住宅をこしらえる検討をしてほしい。	ウエルピアに関しては、市が購入する前に耐震診断を実施しており、体育館以外の建物は耐震機能を有していることを確認済。体育館についても、今年度耐震補強の工事をする予定。
施策（防災）	O	中山、双海にも耐震貯水槽は絶対必要。この貯水槽を、年次計画を持って整備してほしい。	耐震性貯水槽を中山、双海にもということについては、立地適正化計画の中の対象区域が、都市計画区域になっており、担当としての事業の施行はこの区域でないと難しい。また水道担当部局等にも要望は申し伝えたい。
施策（交通）	P	現在、平面交差のため線路が街の東西を分断しており、朝夕の交通ラッシュ時に、線路で待たなければならない。 その上で、中心市街地（西側）は、東日本大震災の関係があり、国道56号周辺（東側）の開発が進み人口が増えている。 JR伊予市駅に東西いずれからも入れるような駅舎づくりをしてもらいたい。JAを利用して、駅を利用した立体交差を図り、エレベーターもつけるなど身体障がい者にとって優しく、駅にも中心市街地にも行ける方向を案として考えていただきたい。	
施策（市街地整備）	Q	広島銀行、朝日生命の跡地の利用をはじめ、中心市街地をどういうかたちで整備するのか。	（施策の説明において、都市再生整備計画事業の基幹事業として、ポケットパーク整備事業を紹介）
施策（市街地整備）	R	国道378号・県道伊予松山港線は、歩道がなく右折レーンもない。交通が渋滞している。これについて改良をしてほしい。	国道378号は、管理主体が愛媛県である。愛媛県では、伊予郵便局から伊予農高突き当たりのところまでを、歩道整備するという方向性は決まっている。 ただ、郵便局の移転の問題で若干進度が遅れており、本市も愛媛県と協力して、早期に事業が実施できるように鋭意努力をしている。 また、伊予松山港線の右折レーン等についても、信号間が短いということと、伊予鉄道が走っておるという状況なので、これから愛媛県に可能性について要望等を行っていききたい。 （県） 国道378号と伊予松山港線について、県にも市から強い要望を受け事業を進めている。 市街地の工事なので、多くの地権者の方が関係してくる。そのような関係で早期完成がなかなか難しく、厳しい財政状況の中で、予算確保して何とか前に進めたい。
施策（商業）	S	農業従事者や漁業従事者自らが値段をつけて売るような道の駅を郡中地区につくってほしい、という声がある。町家ではちょっと規模が狭いと思う。	道の駅に関して、直販所であれば「いよっころ」もある。要望としてお伺いする。
施策（他部署との連携）	T	防災対策推進区域の中の施策は、危機管理部局と関連した形で方向性を見せてほしい。例えばハードで水際線を整備していくとか、ソフトでも、例えば避難ビルをつくるとか、既存のビルを活用していくとかという方針を危機管理課と話し合った上で示してほしい。	
施策（他部署との連携）	U	関連部局との調整を行おうとするとき、例えば福祉系など地域包括ケアであるとか、今現在進行形の話について、現場感覚でしっかり調整した上での結果として規制をかけないと、計画を無視されることになってしまう。 見直しについて、特に介護の政策は、ドラスティックに変わるので、それを誘導施設に入れるか入れないかという判断については、どのように考えているか。	その時々タイミングで見直していかなければならないと思っている。
施策（居住）	V	中心市街地の市営住宅（増福）がもう空き家になっているが、誰でも住みよい環境づくりが現在できているのか、今後どういう形で実践するのか。	市営住宅に関しては、市街化区域内で優先的にまずは市営住宅を建てるという方向性のほうがいいのではないかという議論になっている。湊町の増福住宅を主に考えた建て替えというのを今後検討していかなければならないと考えている。
施策（居住）	W	鳥の木南地区の市街化区域編入について、本当にやるのか。	鳥ノ木駅の周辺を市街化区域に編入する案件について、区域マスには位置づけているが、人口増を主眼とした市街化区域の拡大というのが非常に難しい状況になってきている。何かいい説明ができるようストーリーを考えた上で、市街化区域編入を進めていきたい。